

会員だより

平清盛の史跡を訪ねて

NHK の大河ドラマ「平清盛」でブームになっている、神戸の清盛の史跡を訪ねました。

JR や私鉄の案内を見るといろいろのコースがあります神戸の地下鉄「ハーバランド」駅、「中央市場前」駅周辺にいろいろあるので、そこを指しました。

まず、ハーバランド駅から「ドラマ館」へ行きました。清盛の生涯の事跡や経歴、NHK のドラマで使われた衣装や小道具が展示されていました。



平清盛の服装をした人と写真も撮れます。私たちの感覚だと、「平家にあらずんば人にあらず」と驕

り高ぶった平家は、なんとなく悪役のイメージでしたが、実は武家政権の世を作り、「宋」との貿易を盛んにし、港を造り、経済の発展にも尽くした人だったということです。

そこから歩いて清盛の廟、能福寺へ向かいます。能福寺は、清盛が剃髪入道した寺と伝えられているところ、大きな大仏様があります。日本三大大仏の一つと言われているそうです。少し離れたところに清盛塚があります。十三重の塔で、清盛の墓と考えられています。

したが、大正 12 年の調査で 1286 年に建てられた供養塔だと判ったそうです。清盛が没したのは 1181 年です。

続いて中央市場前の「歴史館」を訪ねます。ここはほとんどパネルが多く、その時代にあつたことや清盛の経歴や、出世街道をひた走る清盛の姿が表示されています。館の外ではその時代の衣装を着た方たちの写真撮影も行われていました。

次に向かったのは、和田神社です。和田神社は清盛が宋との貿易のため

に開こうとした大輪田泊の改修工事が難航したとき、事業の完成と平家の繁栄を祈願して、宮島から市杵嶋姫大神を勧請したものです。



最後に三宮にある「生田神社」にも足を伸ばしました。生田神社は神功皇后が、新羅遠征の帰還の途、船が進まなくなったことから祀られた由緒ある神社ですが、源平一ノ谷の合戦の際、平家軍はこの生田の森を東の城戸として陣を張ったところ、境内にある「生田の森」は「生田の浦」とともに「後撰和歌集」「続千載和歌集」ほかに、和歌に詠まれていと言う有名なところ。いろいろな清盛に関する史跡を見てこれから見

る「大河ドラマ」の見方も変わるかもしれません。

F・M

“風薫る5月”

さいはての二大岬の旅”

四国の室戸岬と足摺岬へ行ってきました。

四国なんてすぐ隣と思いきや、バスツアーに申し込んだのですが、なんと全行程 750K もの長旅でした。明石海峡大橋を渡り、徳島から海沿いに室戸へ、途中大浜海岸でウミガメを見ただけで、朝 8 時に梅田を出て、室戸の宿についたのは夕方 5 時でした。でもツアーは夫婦限定の、おおむね紳士淑女の旅で、寝る人は寝て、しゃべる人もそれなりに小聲だったので、バスの車内はいい雰囲気でした。

1 日目のホテルは温泉で露天風呂を巡り、室戸海洋深層水のお風呂にも入りました。お肌がいいとかで、顔もあらってみましがつるつるになったかなー？

食事はグルメという程ではなかったけれど、年寄り？好みの和食で胃腸にやさしくて助かりました。



2 日目は、土佐といえは坂本竜馬ゆかりの地なので、NHK 大河ドラマの生家のセットや銅像、高知城などを巡り、桂浜ではペットのメダカのために五色の小石を拾ったりしました。

ただ竜馬と 2 ショットを撮りたいと思っていたのですが、この地の像はなぜか皆、見上げるような大きなものばかりでした。



あと、ごめんなはり線というローカル列車に乗ったり、屋形船で四万十川の川下りをしたりと、盛りだくさんの行程をこなして、宿入りが 7 時前。

夕食は楽しみにしていた、皿鉢料理と、かつおのたたきの食べ放題。本場のたたきはとてもおいしくて 3 鉢も食べてしまいました。

3 日目は、四国最南端の足摺岬へ。真っ白い灯台とは対照的に、海岸の岩礁は、いかにも太平洋の荒々しい波によって削り取られたという跡が残っていました。

見学はここまでで、帰りは四国を縦断して宇和島で鯛めし（生の鯛をのせて食べる）の昼食。瀬戸大橋を渡り、あとは一路大阪へと、ただバスはひた走り、無事 9 時半には帰宅できました。S・K

母の横で安心して休んでいます。
苦勞知らずの鳥
長寿の鳥
ちなみに「梟」とは、「木フクロウ」科ではないよ
「ミミズク」は、クロウ目大です。 E・H

